

議

長 日程第1「一般質問」を行います。

一般質問に入る前、事務局は録画の準備をお願いいたします。

昨日に続き、一般質問を通告順に行います。受付番号第7号、秋田谷光彦君の一般質問を許します。登壇願います。

5 番 秋 田 谷 それでは、議長のお許しを頂きまして質問をさせていただきます。受付番号第7号、質問議員、第5番 秋田谷光彦。件名、今後の子育て施策と町長の在任期間について。

要旨。(1)本町は、これまでも近隣の市町に先駆けて児童・生徒にタブレット端末を用意したり、18歳までの医療費無償化に取り組んでまいりました。そして新年度には、小・中学校の給食費や学童保育の無償化など子育て支援の予算も計上され、「チルドレン・ファースト・ネクスト」を掲げておられますが、町長の意気込みと今後の展望について伺います。

(2)新松田駅周辺再開発事業は、都市計画決定に向けての重要な段階に来ております。一方で、今年の9月には本山町長の任期が満了となります。しかし、現在、町長自身が自ら制定した松田町長の在任期間に関する条例があります。本山町長はどのような心境でおられるのか、伺いいたします。

町

長 皆さん、おはようございます。定例会2日目、よろしくお願いいたします。

秋田谷議員の質問に順次お答えいたします。というところまではプランがあるんですけど、ここから先はプランがないので、何の話をするかということがあります。一応通告書で質問を頂いた内容だけ間違えないでいいように、通告書だけここに準備してありますので、すみません。

チルドレンファーストの活字を掲げたのが約3年前で、この内容はですね、やはりその時点で、8年町長をやっている中で、高齢者が増えてきている状況の人口減少の現状の感覚の中でいったときに、地震だとか、災害だとか、何かいろんなことが起きてて、やっぱり高齢者の方々が不安な生活を送られているのではなかろうかというふうな思いの中から、どうしても私はじいちゃん、ばあちゃん子なものですから、やっぱりじいちゃん、ばあちゃんたちに安心して住んでいただくためには、やはり身近に親類だとか、知り合いだとか、若い

方々が住んでいただくことによって、安心した生活ができるんじゃないかという
ような思いの中から、やはり高齢者福祉をしっかりとやっていくためにも、
若い方々の力を頂くために、やはり子供のときからこの松田町に住んでてよか
ったなと思えるような町、また外に1回出ててもまた戻ってきたいような町に
しなきゃいけないという思いの中からチルドレンファーストというふうに掲げ
させていただいたところでもあります。ですので、その辺の理念というか考え方
が分からない、分かってもらってない方々にはですね、何か子供ばっかりの施
策をやってるんだな、今の本山町長はというふうな意見をたまに聞くことがあ
るんですけども、そうではないということだけここで話をさせていただいてお
きます。

今後、これから4年目ということになりますので、それでネクストというこ
とで、3年たったので次のステップに行かなきゃいけないというような思いか
ら、今回ですね、全体の予算を見つつ、これまで小・中学校の給食費の無償化
については、ずっと考えてはおったんですけども、今年の令和7年度の新規予
算についてはですね、いろんないい話がプラスアルファさせつつあったもので
すから、ここで小・中学校の給食費も無償化と、プラス学童保育の無償化につ
いて、思いっきり子育て支援のほうにかじを切ったというふうなことの中で、
次のステージに上がるためにネクストというふうにさせていただきました。

現在ですね、やっぱりコロナの始まった令和2年のスタートからですね、そ
こから昨年、令和5年までの間がですね、約4年間で660人ほど人口が減って
るんです。亡くなる方もいれば、外に出ていった人たちも。要は、入ってくる
人たちが一気に減ったんですね、社会増加が減って、1年間平均で165名が減
ってると。しかし、その前の4年間、令和元年から平成28年のこの4年間はで
すね、本当に皆さん方のおかげをもって人口減少が4年間で336人、1年間に
対して84人、平均ですね、の減少しかなかったというふうなことの状況からす
ると、非常に危機感を感じているところでもあります。ただ、幸いにして令和
6年、1年間ですけども、社会増加が71ということで、人口減少もですね、一
気にまた元の状態に戻りつつあるというふうなことでもありますので、この流

れをですね、しっかりくみしながらやっていくことのためにも、子育て支援をしっかりとやってる町なんだというアピールをもっともってしていくことによって、今現在町内に宅地化が進んでいるところについての住んだりだとかということにつながっていくんだろうというふうに考えております。

今後の展望としては、そういった事業を進めていく中で、安心して、とにかく松田町で産んで子育てをしたいと、産み育てたいと思えるようなことの中から、その先に高齢者の方々が安心して暮らせる町になるというふうに非常に感じておりますので、今後は、いろんな活字はありますけども、やっぱり町ぐるみで、昔子ども会があったときのよう、あのよう雰囲気をもう一度再構築しながらですね、安心して子育てができるような町として今後なっていくように、今後の施策を進めてまいりたいというふうに考えております。

それでは、2つ目の質問にお答えいたします。どのような心境でいられるかということですけど、非常に複雑な感じで、今、現状としてはあんまり考えたくないというふうなのが正直なところです。と申しますのは、やはりコロナが明けて3年目ということに、5年、6年で3年目になりますけども、まだまだ安心していけるようなことでもない状況でもありますので、まずは令和6年度をしっかりと締めて、令和7年度のスタートをしっかりとやっていかなきゃいけないので、今現状ですね、私の在任期間については、当然承知はしていますので、この期間中はしっかりとやっぱりやり通さなきゃいけないと思ってこれまでやってきました。

12年前のことを考えると、秋田谷さんにも、井上議員さんにも、いろんな方々にね、お世話になって今の立場があるということもありますし、そのときに皆さん方とお約束した公約ということで、この条例を制定したいきさつ等もあるのでね、やはりこの条例を、条例については自粛条例という形ではありますけども、この12年間で、駅、もう最大の本丸である駅は、私は解決しなきゃいけないと思って、ずっといろんなものも無駄遣いもせずですね、時間も無駄にしない形で、町行政も町民の方々と議会の方々と一体となってこれまで進んできたところもありますので、ちょっと少し残念なところと言うと、コロナの

影響とかほかの影響によって当初の予定よりもずれたというふうなこともある中でですね、ちょっと心残りの状態にありますけども、ただ、まだまだ駅については、完全に進むというような状況まで至ってませんので、この近々の中で、昨日からも答弁させていただいているように、都市計画決定に向けてですね、とにかく自分の与えられた期間の中から公約をしっかりと、これも公約ですので、守っていかなくちゃいけないかなというふうに思ってます。

そうですね、心境としてはそんな感じです。ただ、あえてちょっと話すると、12年間の中で、公約って幾つか要は謝っちゃってるのが2つぐらいあるんですね。1つは、私が就任をしたときに、これも公約だったんですけど、職員を採らないと。なぜかという、やらなくちゃいけないことがいっぱいあるので、財源が必要だというふうな思いがあったので、職員を採らずに今の職員の中でやっていこうというふうに思っていたところ、就任間際ですね、当時の福祉課長さんから、これから福祉の時代にもう当然突入していきますから、専門職が今臨時で2人いますと、この2人の職員を職員として採用したいんだけど、どうだと言われたときにですね、いや、そういうことだったら採らなくちゃいけないよねというふうなことで採用したのが1つ。もう一つは、副町長人事に関して、副町長さんも、私が兼任できるって勝手に思ってた時代があったので、副町長さんも採用しなければその分の費用がかからないという思いの中から話をしましたけども、やはり行政を回していくためには、行政の事務方のトップである副町長さんというのは、やっぱりいなくちゃいけないという思いで、そのときも皆さん方におわびをさせてもらいながら副町長人事をやったという、過去2つそういったことがありましたのでね、これが、そういったことも御披露させてもらいながらですね、今後、残された部分については、しっかりと任を全うしていきたいというふうに今現状考えております。以上でございます。

- 5 番 秋 田 谷 ありがとうございました。令和7年度の予算概要を拝見させていただきました。これまでも、繰り返すようですけど、近隣自治体よりも早くタブレット端末の配付や、18歳まで医療無償化、7年度の予算概要にも数々の子育て支援、教育支援が盛り込まれています。幼稚園や中学校の改修、整備、学童保育、給

食費など、数々の教育に対する施策が盛り込まれております。教育は社会をつくる、国をつくるとも言われております。これまでの常識や慣例を乗り越えて新しい教育方針を進めていかなければならない時代に入っております。これからも町長には引き続き教育施策を重要施策として取り組んでいただきたいと思います。先ほどお考えを頂きましたけれども、もし補足があれば、もう一度お願いいたしたいと思います。

町長 御質問をありがとうございます。おっしゃるとおりに、私は自分の子供が少年野球で野球をやっているときからずっと思っていますけれども、やはり子供って大事というか、一生懸命頑張っている子供たちを見ると、何かいいなと思っていますところもあります。ですので、「人づくりはまちづくり」というキーワードをずっと心の中というか自分の中で持っていてずっといまして、やっぱり過去の教育分野にお金を投下することが、選挙につながらないとかというような人の中から、なかなか教育にお金が出されてないというようなことがあったやもしれません、全国的にも。でも、私の場合は、やっぱりそういうふうな人を育てていくことが、最終的にこのものづくり日本といいましょうかね、島国日本をつくっていくことになるんだというふうに思って、勝手にですけども、思っていましたので、まさに秋田谷議員が今おっしゃられるように、教育施策、また子育て支援施策等々はですね、これからはしっかりとやっていかなきゃいけないというふうな意識を持っています。以上です。

5 番 秋 田 谷 ありがとうございます。それでは、2つ目の質問に入らせていただきます。これは、町長にとってもなかなか答えにくい問題かもしれませんが、よろしくお願いたします。

本山町長が最初のその際には、当初、最初の頃はですね、私と2人で新松田駅前選挙戦前から、朝6時から立ちまして、多選阻止、5選阻止を公約の一つとして戦ったと記憶しております。それから、いろんな皆さんのお助けを頂きまして、トータル40日ぐらい朝立ちをしたという記憶がございますけれども、町長は覚えておられますでしょうか。2期、3期目の際には、私も商工振興会会長や観光協会会長職に就きまして、また町民の多くから会費や御寄附を頂戴

する立場の関係上、表立って応援をすることができなくなっていました。
本山町長が1期目の際、多選禁止条例を出された経緯と思いは、私は大いに評価しておりました。多選禁止は、職業選択の自由、地方自治法、公職選挙法に抵触するため、努力規定の多選自粛条例となっておりますが、法的には拘束力がない自粛条例だとしても、公約は誠実に履行すべきだと私は考えていましたが、現在の町長のお考えをお聞かせください。

町 長 御質問を頂きました件につきましてはですね、当時、多選の、最終的には自粛条例ということで、3期12年で、私も3期12年でいろんな公約を終わらせるつもりで、また終わるんだという思いの中からずっとやらせていただいていますし、その間、幾つかあったにしてもですね、その考え方は変わってないというふうなのが1つです。

あと、その上でも公約ということで条例は制定してありますので、条例をさすがに、推進条例といいましょうかね、その自粛条例みたいなことでもありますが、条例は条例なので、やっぱり法を守らなきゃいけない我々の立場からすると、条例についてはですね、守れるように、とにかく多選の弊害というようなことを話をして5選阻止というふうなことをやってきましたので、私がいることで弊害であるならば、当然去っていかなくちゃいけないというふうに考えています。以上です。

5 番 秋 田 谷 今、町長のお言葉をお聞きしまして、本当に安心をいたしました。自身で多選自粛条例を出された心情としては、当然のことだと私は思います。しかしながら、今、松田町の現状は、新松田駅前周辺整備事業の進行が微妙で難しい段階に来ております。特に、新松田駅前の多くの土地所有の地権者である小田急電鉄さんやJR東海さん、ほかバス、タクシーなどの各交通機関の折衝など、公共交通機関企業の協力なしでは再開発事業は達成できないと思われます。特に小田急電鉄さんなどは、それなりの信頼関係がないと面会や話合いなどに乗ってくれないとうわさでは聞いております。幸い本山町長は、小田急電鉄幹部とは交流が長いと聞いております。新松田駅前周辺開発事業は、長年多くの町民が待ち望んでいる事業計画です。この事業計画が軌道に乗る前の都市計画決

定もなされていない微妙で難しい段階に入っている時期に、町長が交代するのはいかなものかと考えますが、ダブるようですが、もう一度お考えをお願いできればと思います。

町 長 そうですね、おっしゃるとおりなところは客観的に見て分かります。やっぱり駅に関して事業を進めてきたこの約11年ちょっとは、職員の皆様方、地権者の皆様方の御協力を頂いて現在ここに至ってますけど、本当にゼロからのスタートに近いような状況でありました。当時は、財政調整基金が約4億ぐらいで、たしか小学校を建てるという教育基金も4,000万ぐらいしかない中で、32億の小学校を建て、今現在はトータルすると20億以上の貯金があるような状態の中でここまで来てたということについては、やはり各、小田急さんだけでなくJRさん、あとは県、国、その辺との信頼関係があって、やはり一目も二目も置いていただいているような状況から、その張本人がいなくなるというのは、ちょっと言えば無責任な感じになるのかなというふうな思いもあるので、冒頭ちょっと申し上げたように複雑といったところが、いろんなものがかみ合っているので複雑だなと。ですので、そういった信頼関係も失うことがないように、今後事業も進めていかなきゃいけないので、やっぱり、そうですね、人によるんでしょうけど、いなくなる人とやっぱり話をしたってしょうがないですね。というのは多分あろうかと思うので、そうならないように、やはりいろんな面で、当然私も体調を崩してできないこともあるでしょうし、とかいろいろ考えると、そうならないような仕組みづくりといいましようかね、方向性をきちっとやっぱり進めていかなきゃいけないと思ってますので、はい、大切な時期だというふうには考えて、今後も都市計画決定に向けてですね、丁寧な説明をしてまいりたいというふうに考えております。以上です。

5 番 秋 田 谷 自ら制定した多選自粛条例をほごにするのは、本山町長にとって誠に不本意かもしれません。私も多選阻止を掲げて一緒に戦った者として誠に心苦しい思いですが、今現在の状況のところでは、また町長に続投をお願いをしなければならいかもしれません。そんなわけで、町民の中からも町長の続投機運が起き始めております。小田急新松田駅前周辺再開発事業は、松田町の歴史上最大

の事業です。今後の松田町の命運もかかっています。本山町長も、運命のいたずらか、3期12年でこの大事業の完成を見ないことは、さぞや心残りかと思えます。そこで、町民の皆さんから続投の要望が出されたときには、これを再考する余地があるのか、重ねてお尋ね申し上げます。

町 長 考えます。それは再考するというか、いろんなことを含めながら…はい、以上です。

5 番 秋 田 谷 町長としても苦しいところでございましょう。本当に分かります。先ほど申し上げましたとおり、今後の松田町の命運と、これからの松田町と足柄上郡の玄関としての道しるべになる大事業を中途半端な状態で任期を終えるのは、私は事業進行の危うさを感じざるを得ません。これから計画の本当に要であります住民との話し合い、都市計画決定、それから多くの契約が山積しております。本山町長自身の多選自粛条例は、信条としては足かせとなりますが、町民の中からも続投機運もあります。私も心に引っかかるものもありますが、こんな事情でございますので、町長の続投は、町民の御意見を聞きながら検討していただけたらと私は考えております。私は、52年間新松田駅前でお店を営業してきました。この新松田駅前の再開発を一番望んで必要だと感じているのは私じゃないかと自負をしております。また、町長の続投は、最後は有権者である町民でありますので、いま一度町民に挑戦、もう一度挑戦していただければと私は心から思っております。もし一言ありましたら、なければこれで私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

町 長 温かいお言葉を頂きまして、ありがとうございます。昨日もちょっとお話ししたように、駅だけやってるわけじゃないんですけども、駅に関しては、やっぱり第5次、第6次、併せて、町民の皆さんたちがやっぱり一番にやらなきゃいけないということは、就任当時からずっと背負ってきたことでありますので、これを中途半端で投げ出したみたいな恰好で後から指差されるような生き方だけはしたくないなという思いは常にあります。ただ、先ほど言っていたように、この先を決めるのは町民の方々なので、今頂いているこの12年間は、とにかくやってみろというふうに言っていて今現在に至っているところ

からすると、最後までしっかりと任を務めてまいりたいというふうに考えていますので、そういった時期がまた、落ち着いた時期が来ましたらですね、正式にお答えを出さなきゃいけないかと思っていますので、よろしくお願いいたします。以上です。

議 長 よろしいですか。

5 番 秋 田 谷 どうもありがとう。これで終わります。ありがとうございました。

議 長 以上で受付番号第7号、秋田谷光彦君の一般質問を終わります。